

# 継承と発展へ 篠山春日神社秋祭り



人が好き まちが好き  
**街かど**  
Report

江戸時代から400年以上に渡って伝承されてきた「篠山春日神社秋祭り」。人口減少など、時代の流れとともに課題も多く見えてくるようになり、その中で新たな一歩を踏み出した「篠山春日神社秋祭り」についてお伝えします。

## 継承と発展

丹波篠山城下町一帯で営まれる祭礼は、江戸時代初期に成立したとされています。鉾山巡行や「神輿の渡御行列」「太鼓みこし」の巡行があり、黒岡をはじめとする氏子17町がこの祭りを受け継いでいます。

地域住民の努力により400年以上の時をかけて大切に守り継がれた祭礼は、平成29年(2017)には市の無形民俗文化財の指定を受けました。

## 課題解決に向けて新たな一歩 「篠山春日神社秋祭保存会」

大きな評価を受ける半面、運営に際して地域住民が抱える課題はさまざま。人口減少による曳き手、担ぎ手、乗り子の人材の確保など、祭りの持続・発展を考えるには難しい状況となりました。さらには、祭りの準備と運営は当番町「大年番町」だけで行われており、極めて過重な負担となっていました。

そして、その課題解決に向けて昨年11月に「篠山春日神社秋祭保存会」が発足。今年10月には保存会が初の準備・運営にかり、大年番町とともに、秋祭りの開催に至り、新たな一歩を踏み出すことができました。



ライター  
はた ひろ恵さん

## プロセスは地域の大きな力

今回の祭りから、私も保存会の広報委員として携わりました。祭りに向けて、役員の方々の活動や小学生たちのお囃子稽古、町の人々のふれあいを見ていると、「祭り」のプロセスこそ、地域をつなぎ力強いふるさとづくりになると感じました。私も久しぶりに祭りを通して皆さんと顔を合わせ、心を合わせ、元気をもらうことができました。

今まで、何のために、誰のために祭りは必要なのかと思うこともありましたが、まさに祭りは「町づくりは人づくり、人づくりは町づくり」だと言えます。さらに輝かしい祭りの発展を担ってほしいと思います。



## 110年の時を超え 「鉾復活」へ、いざ挑戦

近年、観光地として注目を集める丹波篠山市。丹波篠山ならではの魅力を求め、多くの観光客が訪れます。その中で、雅な見送りを見つけ巡行される9基の鉾山に大きな注目が注がれます。鉾山は、江戸時代から明治時代までは、各鉾山の屋根の上に高々と「鉾」を挙げて巡行していました。明治43年に当地に電気が開通し、その電線が障害となり、鉾を挙げて巡行することができなくなりました。しかし、昨年3月には、河原町通りの無電柱化工事が完成し、その可能性がでてきました。

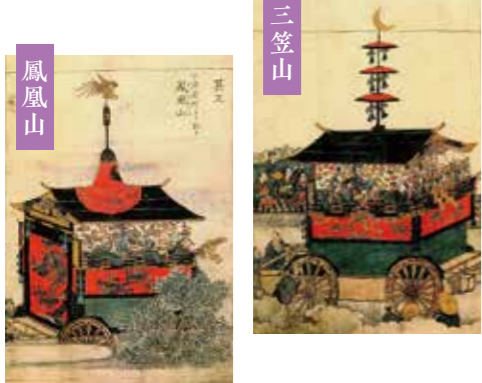
そこで立ち上がったのが地域住民らで組織する「鉾復活実行委員会」。110年ぶりに本来の姿である「鉾復活」に向け、誇りとロマンをかけた挑戦が始まりました。

## 鉾復活大作戦

鉾復活への修復が完了次第、令和5年3月に河原町通りでのお披露目巡行が予定されています。また、「国の重要伝統的建造物群保存地区協議会」の総会(全国大会)が、丹波篠山市で開かれる5月にも巡行を予定されています。

今回は、無電柱化された河原町通りに位置する鳳凰山・三笠山2基の鉾復活をめざし、事業に共感した方からインターネットで資金協力を募るクラウドファンディングも実施されています。

クラウドファンディングについて詳しくは→  
鉾復活実行委員会事務局 ☎080-5612-5791



特集  
情報ピックアップ  
タウンとピクス  
コロナ  
HOTとく  
市政リーダー  
インフォメーション  
施設情報・相談  
はぐくみ  
街かどレポート  
まちの話題